

昭和をモーレツに愛する。
熱烈な昭和B面文化への憧憬。

PROFILE



歌謡曲専門の音楽人として関西圏での活躍が花開き、NECアベニューより発売のCD「デジタル・グループ歌謡曲の演劇に携わる。METROの「グランド・キャバレーナイト」にて歌謡曲をスピニング。オチャメはサングラスと蝶ネクタイが似合っていて。

高度成長期に魅せられた
昭和モノマニア。
往時のB面文化を蒐集する。



少年キングの仮面屋「カール」購入の箱を飾りつけ
「おまけ」は「カール」のキャラクター人形。



セカイショーのシューズとこれも鑑定価格15万円の超レアで人気のキャラクター人形。とある靴屋の店頭で「¥5,000くらいで」入手。

「こ存じ、というよりおなじみの、とでも言うおうか。モックン・カスロー氏と言えは、の昭和モノグッズ。その熱烈な蒐集ぶりはすでに有名だが、このような彼の昭和モノへの憧憬は、まさに彼が産声を上げた往時、誰もが豊かな暮らしを求めてモーレツに進んだ高度成長期への憧憬に他ならない。さらに「昭和33年、世田谷区松土水で産声を上げ、近所の植木等さん家にお迎えにやってくる小松政夫運転手の姿を眺めながら幼少を過ごし」物事にはいつもA面とB面が持つ宿命を知っていた彼は「大量に消費を迫られていたあの時代のヒット商品の陰に、ゴミの山ほど存在していた泣くに泣けない徒花」つまりB面文化への造詣もことのほか深い、という次第である。今回はそんなB面文化グッズと意外に細かいA型人間ぶりをちと披露。



愛するキャラクターに囲まれて嬉しむモックン。「旅行代理店の通車員時代、クルマの修繕（シーターやケネルのスターウォール）などをよく販売し集めたが、現在は整理された部屋よりフロアに置いておくことに決めた。近頃は「近頃は整理された部屋よりフロアに置いておくことに決めた。近頃は「近頃は整理された部屋よりフロアに置いておくことに決めた。」

昭和39年生まれ、加藤草製菓の企業キャラクター。「加藤清正の虎狼治にひっかけた」虎のヒットくん。鑑定価格5万円。



レコードの蒐集も充実。「これはA&M的ソフトロックセンスが花盛りだった頃の我が国のCMソング時代のレコード。小林重星の「セイコー」は抜群。」

製菓会社にこのようなかわいいキャラクターモノが多いのは、やはり子供にイヤがられないためか。セイコー製菓のキャラクター。「これおしいねん。ほんまは木の枝抱持ってんねん。探してんや。」デザインはルネ・内藤氏。



往時のマガジンを当然コレクト。特に注目目は、話題騒然だった京都特集の平凡「ピンチ」。「加納典明が男女をひっぱがした花街のストリーキングが社会問題に。70年代の一番スゴイ京都特集して、80万部が売り切れた。」という話をついにこの間、この本のイラストを担当した小林泰彦氏と飲んで語り合ったとか。

カバンは京都の2大老舗カバン屋、ポストン商店と一澤帆布のものを愛用。一澤帆布のものはタックが2つの特注品。



小さ目のものは小さ目のもので棚に収められている。どこにもぎっしりという感じで入っている。

A型人間の本領発揮。意外に収納術のモックン。その整理整頓ぶりを披露。部屋中のスペースを隙間なく有効活用。TV映像は「毎夜深夜1:45AMより出演中の「カオスTV」。

取材・文／端井由紀子★写真／武慶育子